

# 釧路湿原川レンジャー News

## 2009 Vol.4

### 第2回「釧路湿原川レンジャー学習会」 が開催されました

平成21年8月7日(金)  
場所：標茶町河畔緑地  
サルン・サルボ展望台

平成21年8月7日(金)に、「第2回釧路湿原川レンジャー学習会」が開催され24名が参加して、昨年度、標茶小学校のそばの河畔緑地に新しく整備された「しべちや水辺の楽校」での水質調査と、サルルン・サルボ展望台からの湿原学習を実施しました。

#### 水質調査について

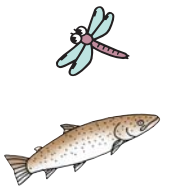
北海道開発局では、毎年、北海道の主な河川で地域住民の方々と一緒に川の水質状況を調査しています。

この調査は、川の水質を参加者が直接確認して頂きながら、川に対する関心を高めて頂くことを目的としています。

#### 5班に分かれて水質調査

参加者は各自救命胴衣を着け、スタッフから調査手順の説明を聞いてから5班に分かれ、流速や水の透視度・匂い・川底などの「川の状況観察」や、パックテストによる「簡易水質検査」、川に生息する虫を観察する「水生生物調査」などを行いました。

調査終了後、スタッフから調査結果の説明があり、「川の状況観察」では、数日前に降った雨で川水が増水して濁ったため、透視度が少し低い結果でしたが、「簡易水質検査」・「水生生物調査」では、全般的によい判定結果が得られ、川の環境としては非常に良好であるとのことでした。



スタッフから調査手順を確認



河床の大きな石を採取して水生生物調査



説明を聞いて、いざ調査開始



透視度は何センチ？



スタッフから調査結果の説明



水温は何度？



ウキを流して流速調査



水質調査に参加した川レンジャーの皆さん

## サルボ・サルルン展望台で湿原学習

午後からは、初めてのサルルン展望台・サルボ展望台での釧路湿原学習となり、釧路湿原川レンジャーのメンバーでもある釧路短期大学の**大西英一**教授に解説をして頂きました。

### 展望台での主な解説内容

- ・この地域は釧路湿原の中でも非常に重要。
- ・この地域の湖や沼は海跡湖で昔はつながっていた。その為、塘路湖には、海水で生息するクロイサザアミが生きている。
- ・釧路湿原が国立公園となった要因は、
  1. 原始の面影を残す貴重な区域。
  2. ダムのない自由に流れを任せた自然河川。
  3. 生物多様性の区域。
- ・下流の湿原地域は、西側が高く、東側が低い。
- ・明治の後半、湿原を区画整理し入植する計画があった。
- ・湖と沼の違いは、水深が5m以上が湖、5m以下が沼。
- ・近年、湖の<sup>(※1)</sup>富栄養化が原因で<sup>(※2)</sup>アオコが発生する頻度が増えている。

(※1) 富栄養化：生活排水や家畜ふん尿、肥料などを起源とする窒素化合物及びリン酸塩等の栄養塩類が湖に供給され、植物プランクトンが繁殖しやすい状態に移り変わっていく現象。

(※2) アオコ：藍藻(らんそう)プランクトンが大量発生し、湖の表面に浮かび上がり、水面に緑色の粉を浮かべたような状態になること。

**[大西教授、解り易い解説をありがとうございました]**



サルルン展望台から塘路湖・サルルン沼を望みながら湿原学習



解説する大西教授



散策路での樹木の説明に聞き入る参加者



サルルン展望台での湿原学習



手前がサルルン沼



サルボ展望台までもう一息



サルボ展望台での湿原学習



湿原を走る国道391号と釧網本線